

欧州景気概況(2023年9月)

2023年9月4日

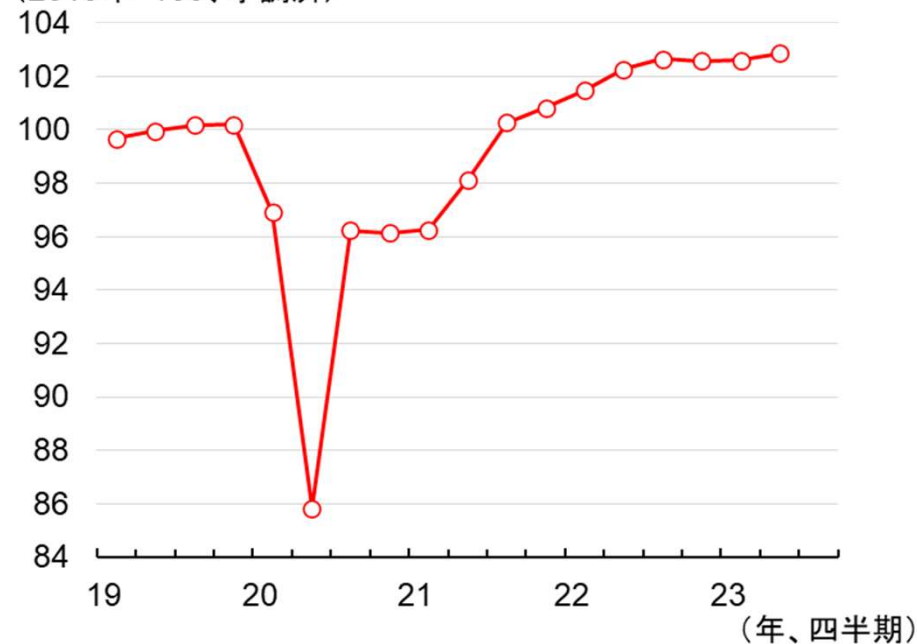
調査部 副主任研究員 土田陽介

ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の4-6月期の実質GDP(改定値)は前期比+0.3%とプラス成長に復した。スペインが同+0.4%と好調を維持し、またフランスが同+0.5%と加速したことなどが、ユーロ圏全体のGDPを押し上げた。一方で、景気の方角を示す景況感指数は、最新8月が93.3と4ヶ月連続で低下した。製造業・サービス業、建設業と幅広い業種で景況感が悪化した。

実質GDP

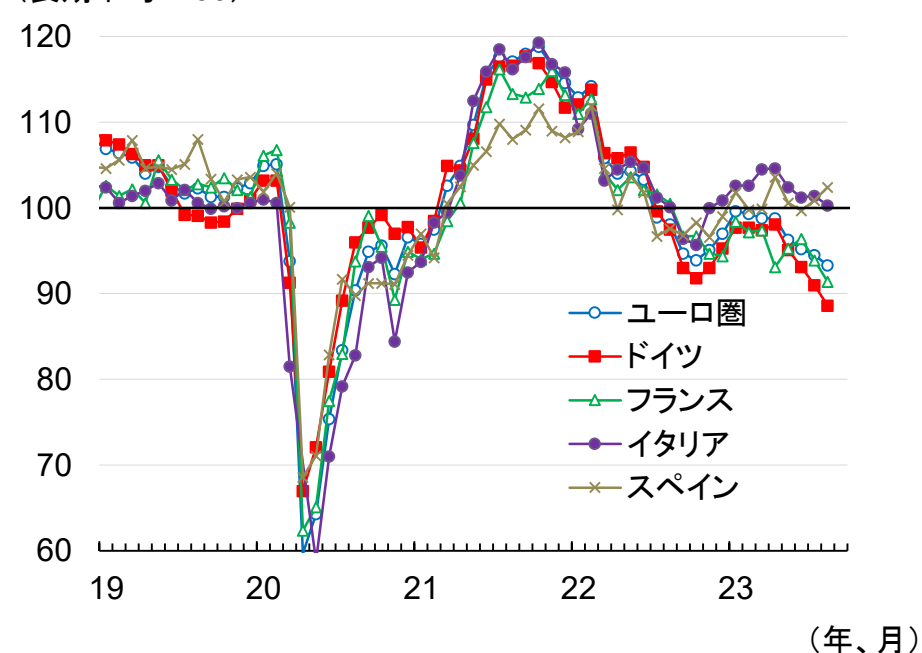
(2019年=100、季調済)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

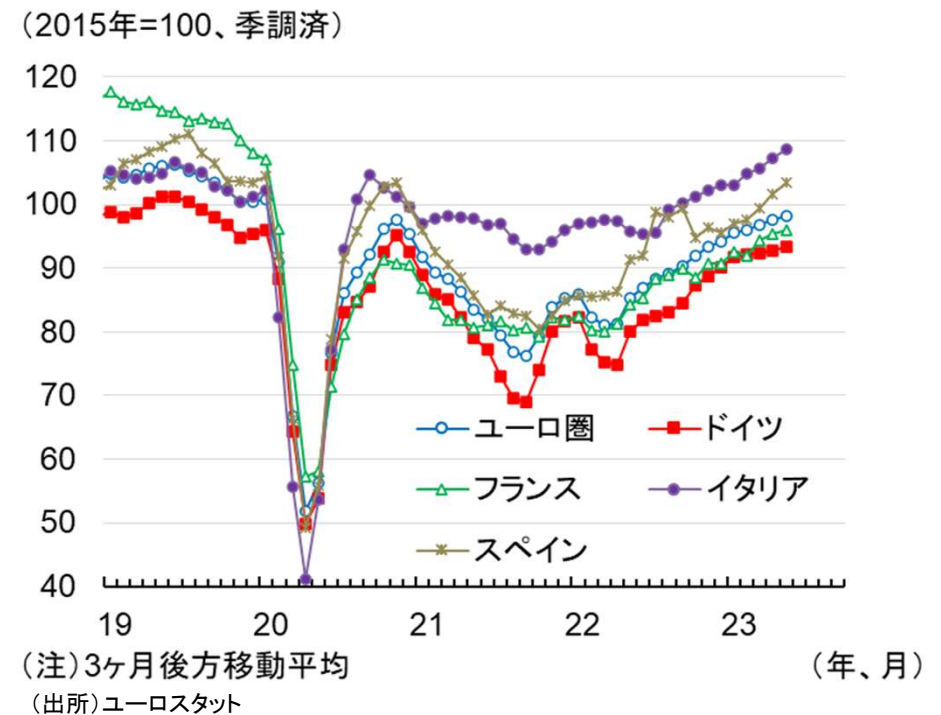
ユーロ圏景気概況② 生産は足踏み

ユーロ圏の6月の鉱工業生産は前月比+0.5%と5月(同横ばい)から持ち直したが、均した動きは足踏み。一方、自動車の生産は、特にイタリアやスペインを中心に、底堅い回復が続く。

鉱工業生産

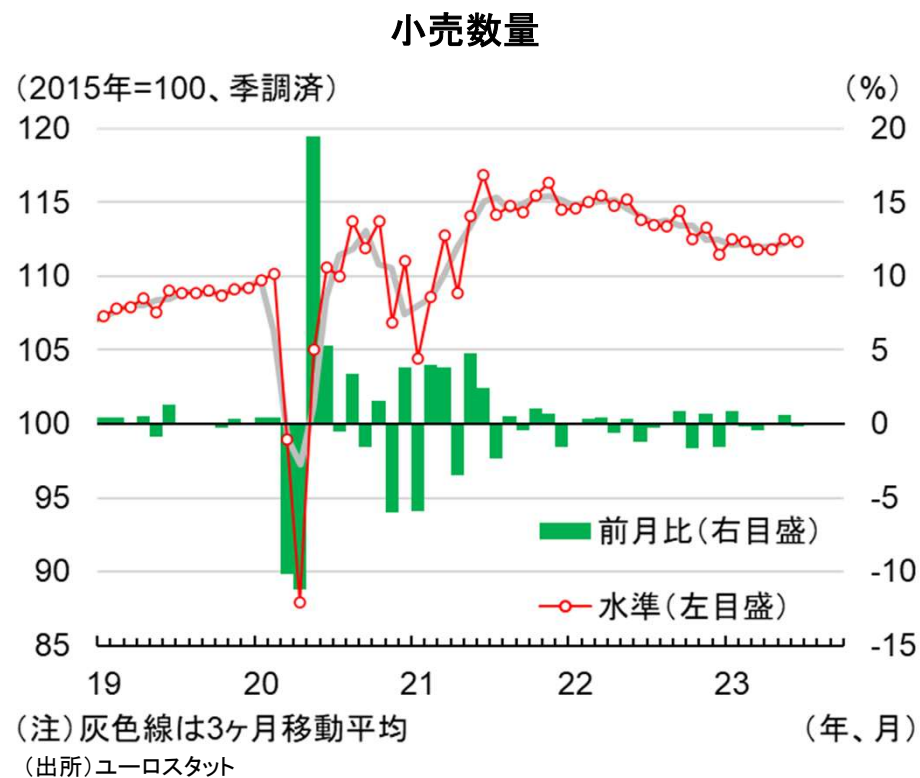


自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



ユーロ圏景気概況③ 消費は足踏み

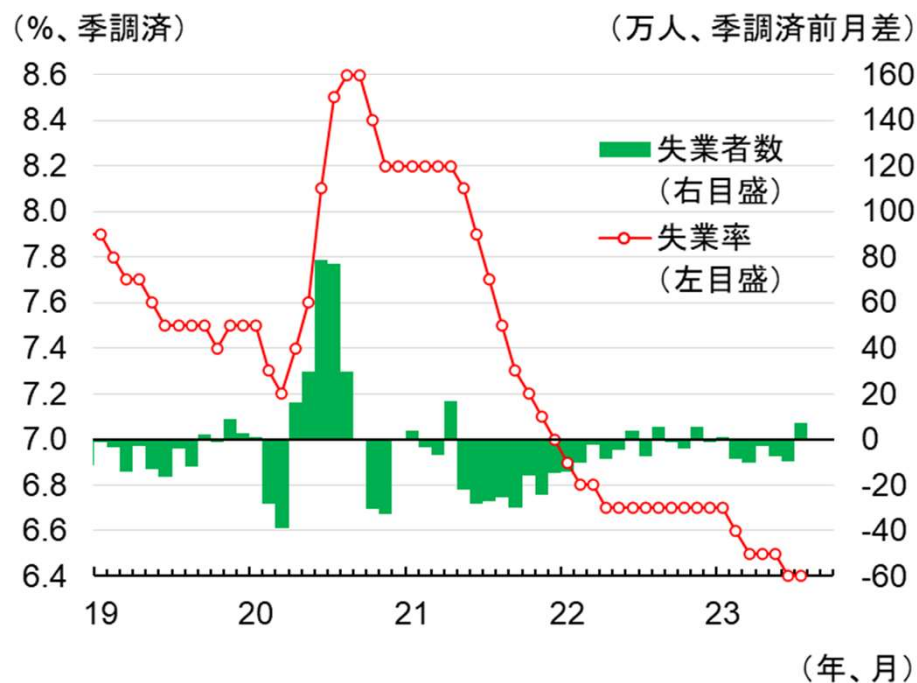
ユーロ圏の6月の小売数量は前月比▲0.2%と3月以来の減少となり、均した動きは足踏み。翌7月の新車販売台数は、前月比+4.0%の年率908万台と再び増加も、均した動きは足踏み。



ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が一服

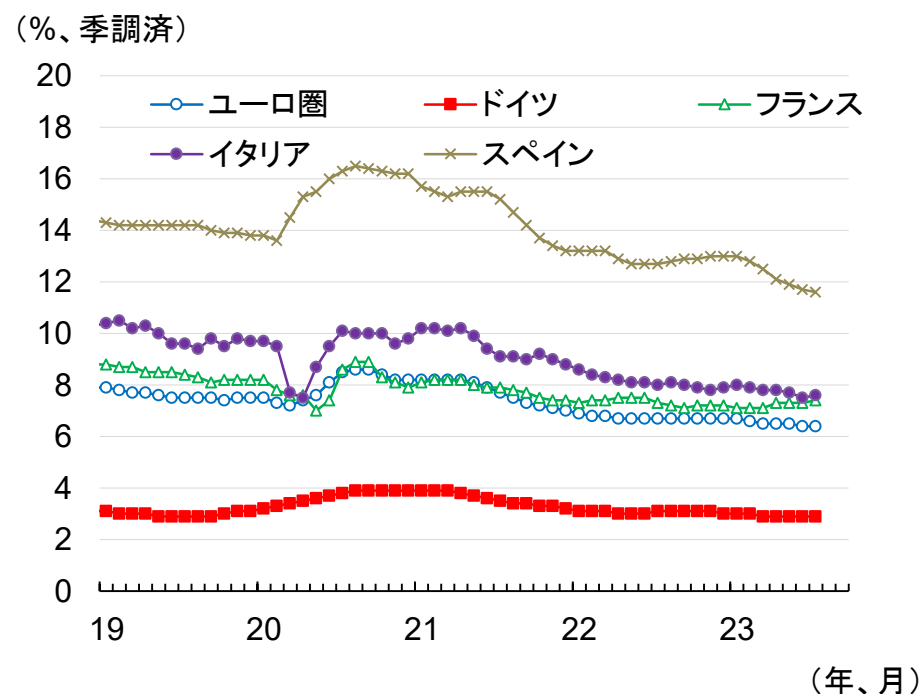
ユーロ圏の7月の失業率は6.4%と2ヶ月連続で横ばいとなり、失業者数も前月比7.3万人増と1月以来の増加となったことから、雇用は改善が一服した模様。主要国別に失業率を見ると、各国ともわずかな低下か横ばいにとどまった。

雇用統計



(出所) ユーロスタット

主要国別失業率

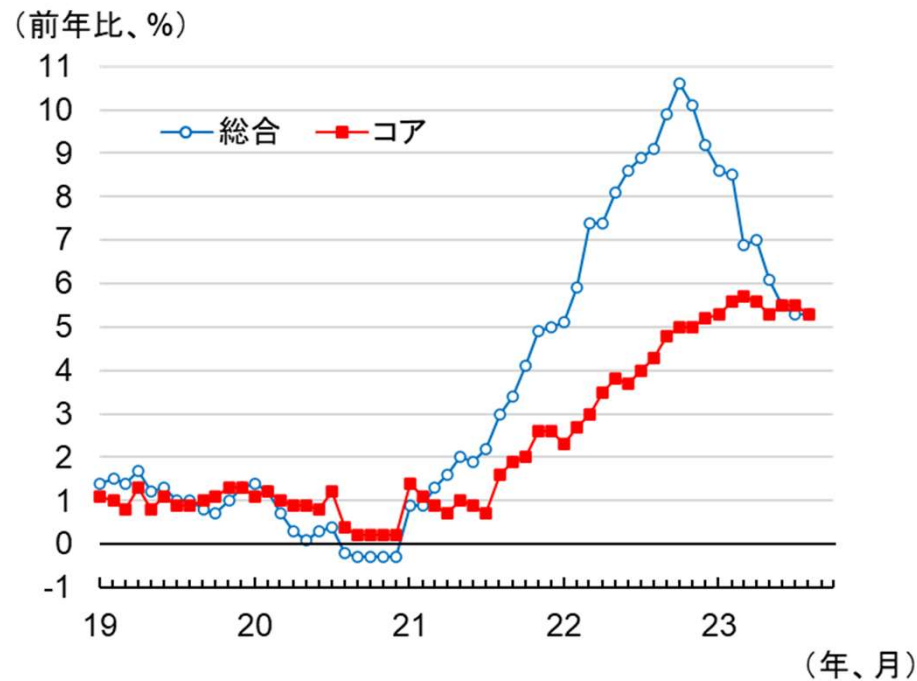


(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ インフレは鈍化

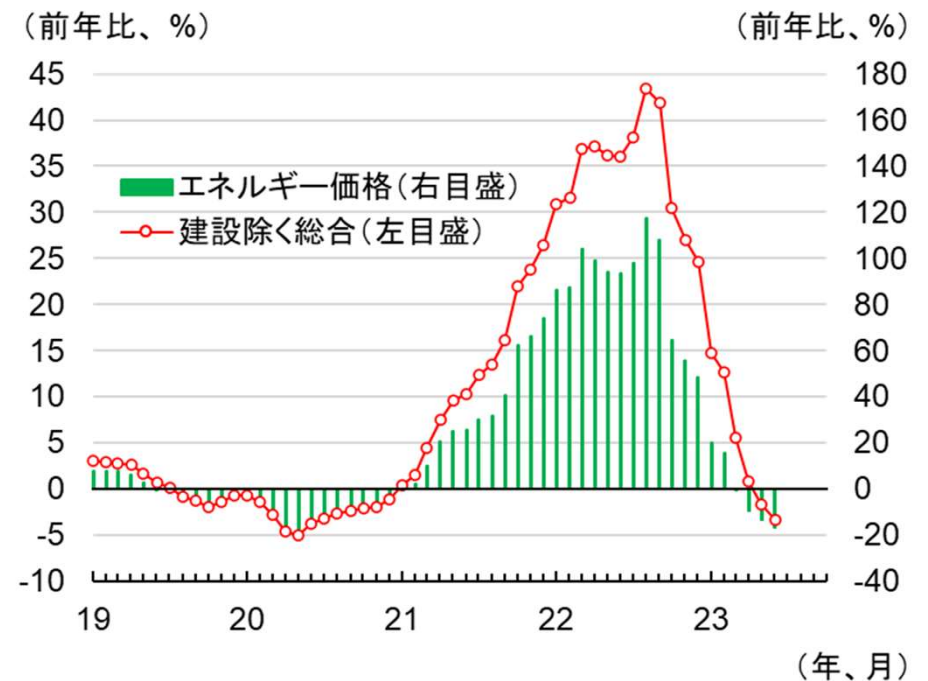
ユーロ圏の8月の消費者物価(速報値)は総合ベースで前年比+5.3%と、前月と同じ伸び。反面で、変動が激しい項目を除いたコアベースは同+5.3%と、前月(同+5.5%)からわずかに伸びが鈍化した。一方で、生産者物価(建設除く総合)は6月時点で前年比▲3.4%と、2ヶ月連続で前年割れとなった。うちエネルギー価格も4ヶ月連続で前年割れとなった。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価

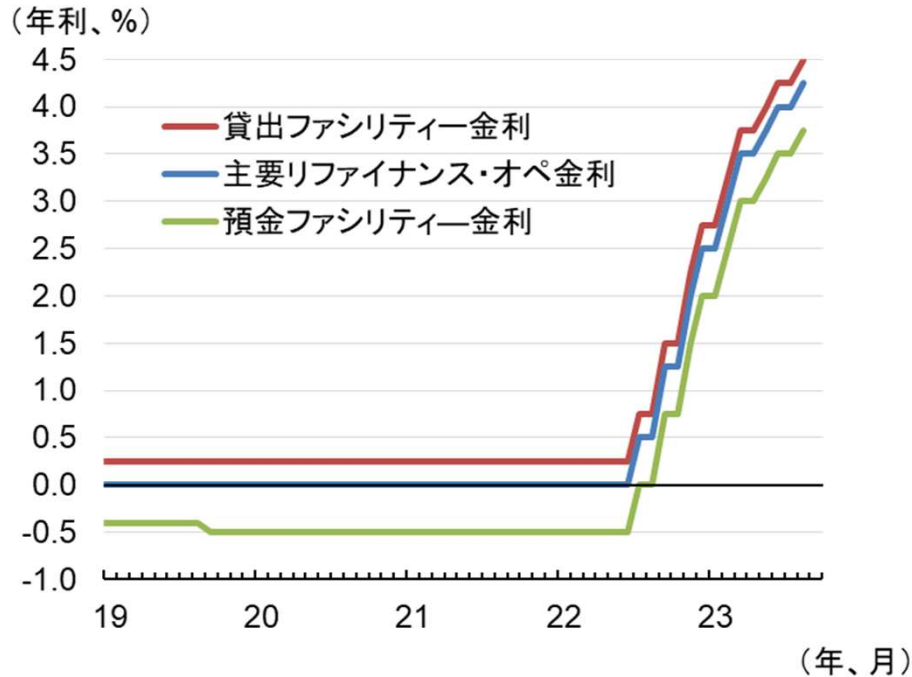


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは9月14日に理事会を予定

欧州中央銀行(ECB)は9月14日に政策理事会を開催する。ターミナルレート(利上げ局面での天井となる金利水準)が意識される一方で、8月の消費者物価の内容が強かったため、9月の理事会での追加利上げの可能性が浮上している。見送りとなっても、10月26日の理事会で追加利上げが行われる見通し。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

前回7月理事会での決定内容の概要

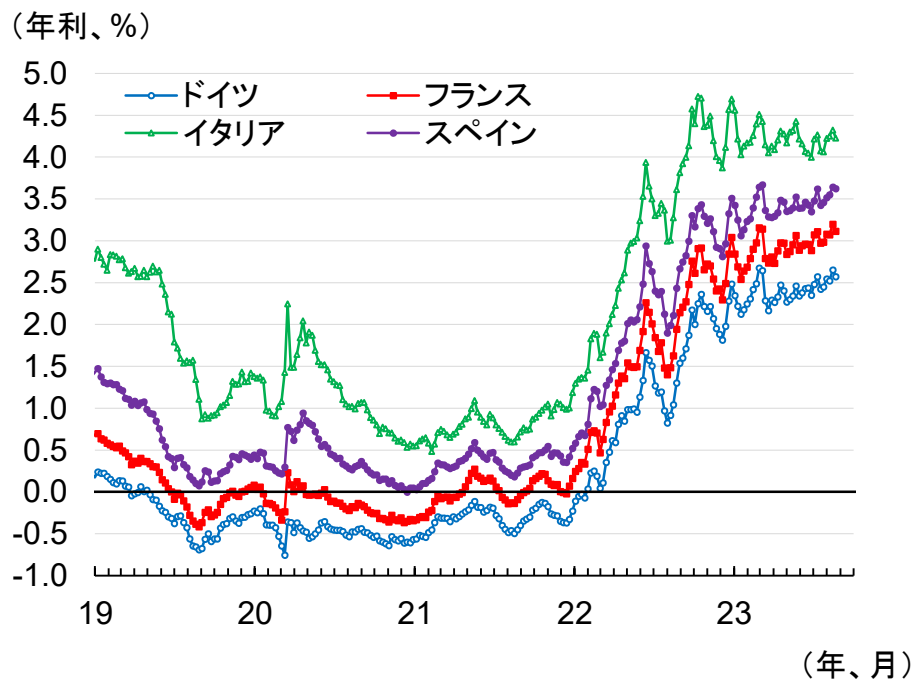
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> 各政策金利を0.25%ずつ引き上げ 貸出ファシリティー金利 4.25%→4.50% 主要リファイナンス・オペ金利 4.00%→4.25% 預金ファシリティー金利 3.50%→3.75%
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> 資産購入プログラム(APP) 3月から6月まで月150億ユーロのピッチで保有資産を削減 6月で再投資を終了 パンデミック緊急購入プログラム(PEPP) 再投資は2024年末で終了 各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> TPIの適用条件 EUが定める財政ルールへの順守 健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など) TPIの具体的な手段 流通市場での国債購入、金額は無制限 購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年 状況が改善すれば終了 経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず

(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は横ばい、株価は下落

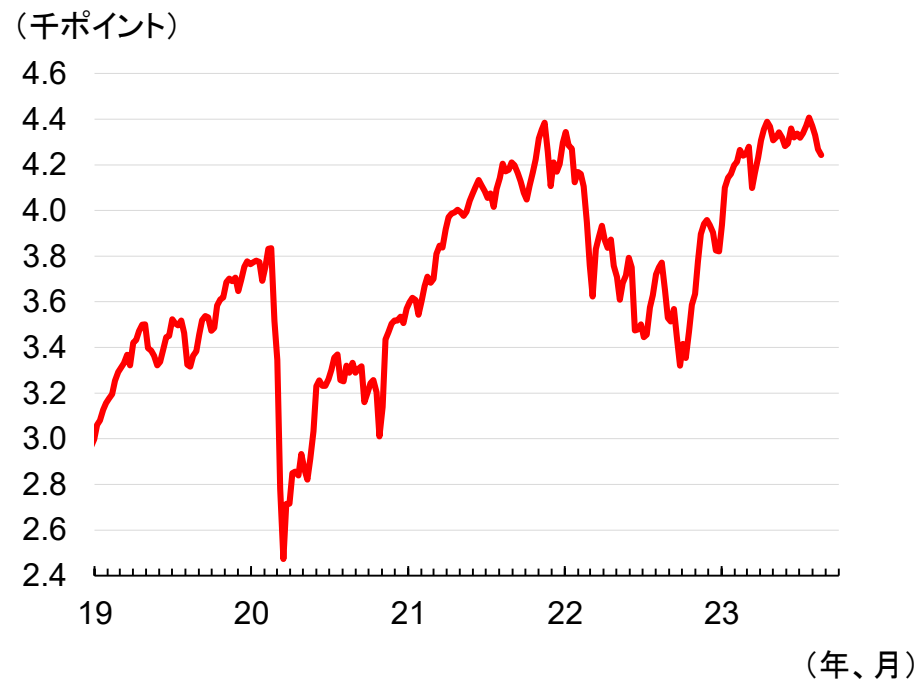
8月のユーロ圏主要国の長期金利は横ばい。欧州中銀(ECB)による追加利上げを巡る思惑が交錯し、金利は横ばいで推移した。他方で、8月のユーロ圏の株価は下落した。米債の格下げや欧米の金融政策の不透明感が嫌気されて、株価が下落した。

長期金利



(出所) ECB

株価 (Eurostoxx50)

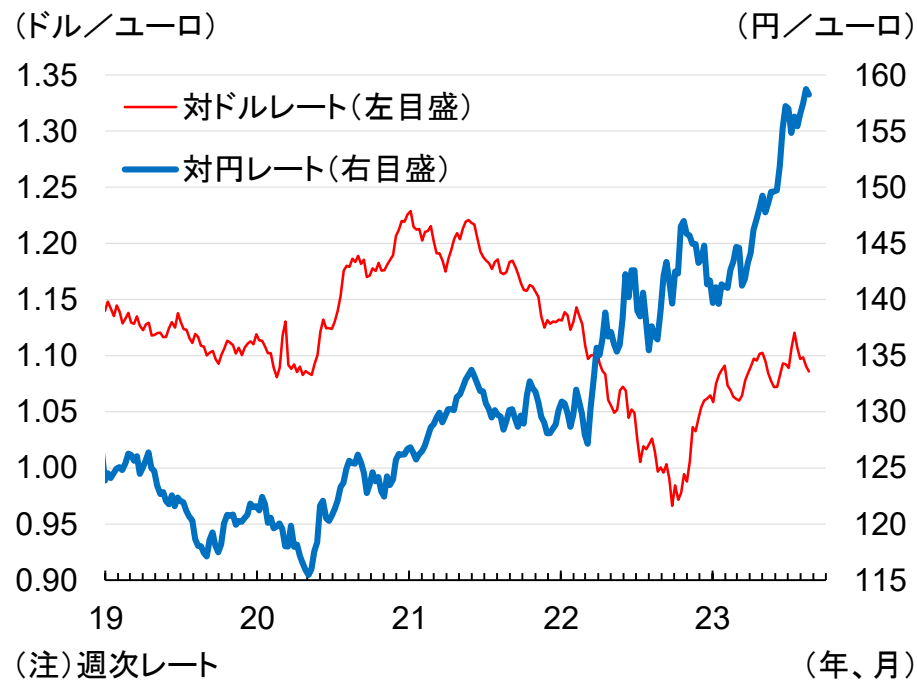


(出所) STOXX

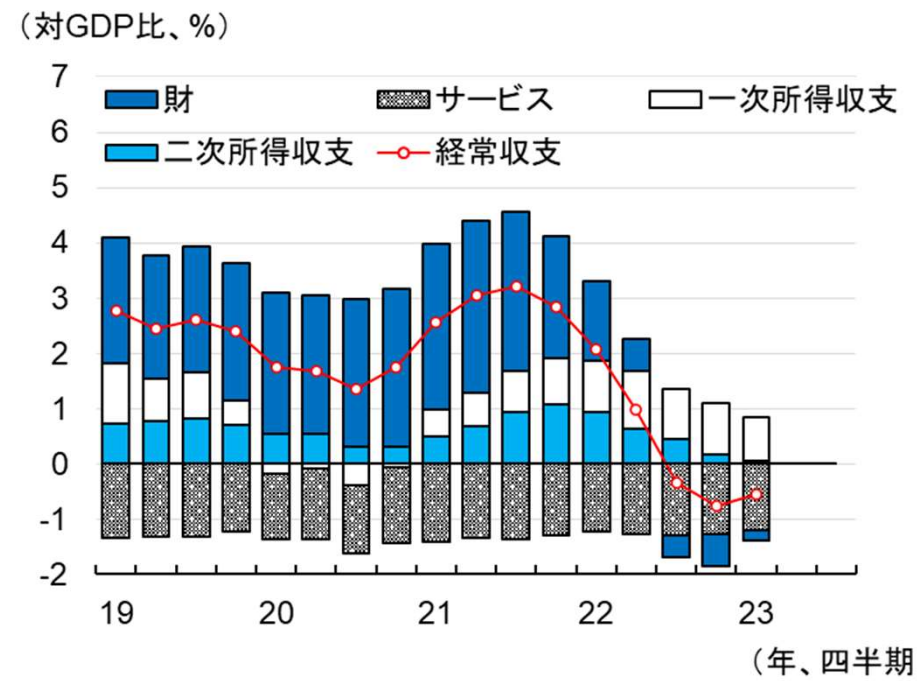
ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドルで下落、対円で上昇

8月のユーロ相場は対ドルで下落、対円で上昇した。対ドルでは、世界的なドル高の流れを受けて、ユーロが売られた。対円では、日欧間の金融政策の方向の違いからユーロが買われた。ユーロ圏の経常収支は財収支の赤字幅が縮小に転じたが、実需面からのユーロ買い圧力は依然として弱い。

ユーロ相場



国際収支

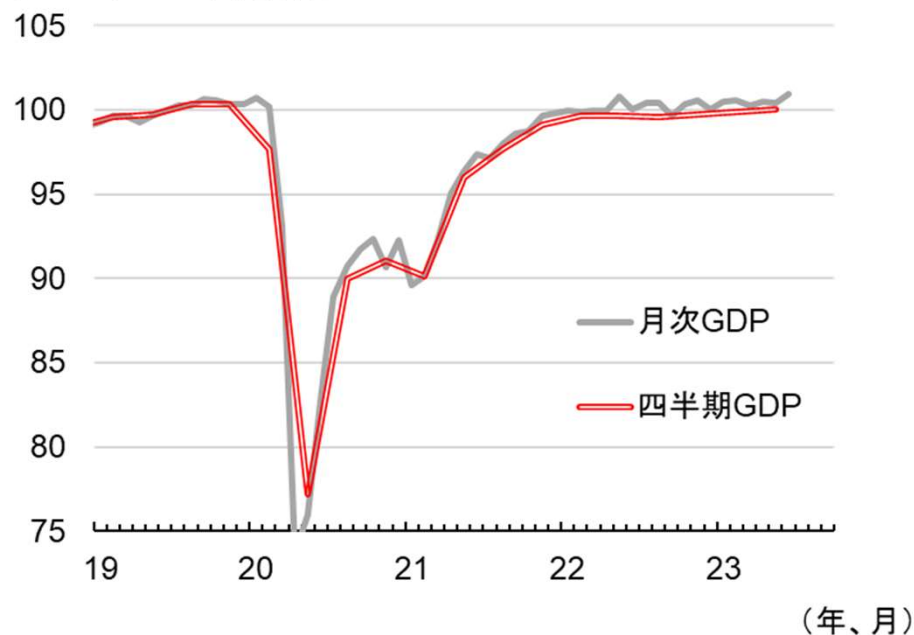


英国景気概況① 景気は回復している

英国の4-6月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.2%と、1-3月期(同+0.1%)から増勢がわずかに加速。主要な需要項目の動きを確認すると、設備消費が急増し、また個人消費がわずかに増加して景気をけん引した。反面で、輸出が減少して景気を下押しした。続く7月の月次実質GDPは前月比+0.5%と再び増加した。

実質GDP

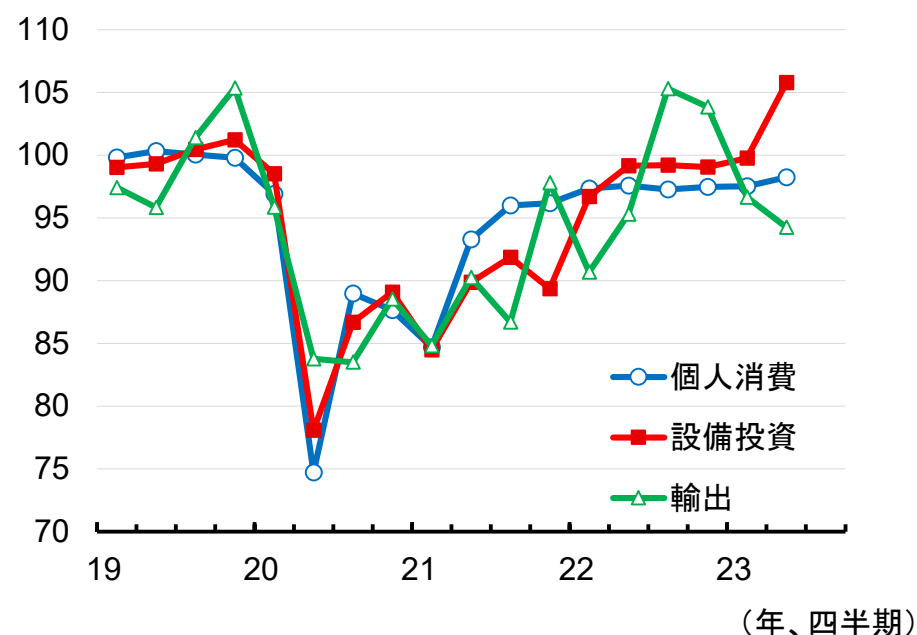
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

主要な需要項目

(2019年=100、季調済)

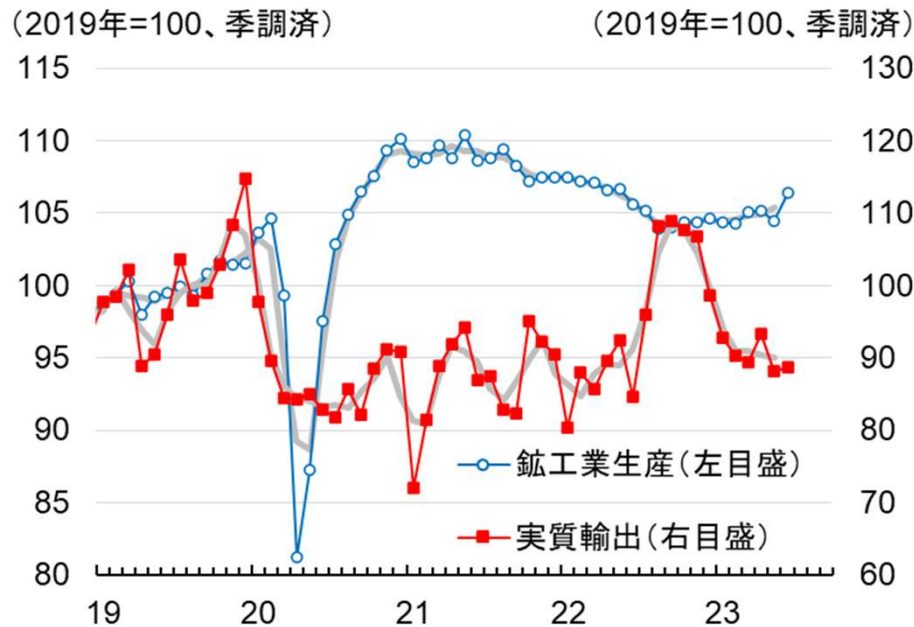


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は回復

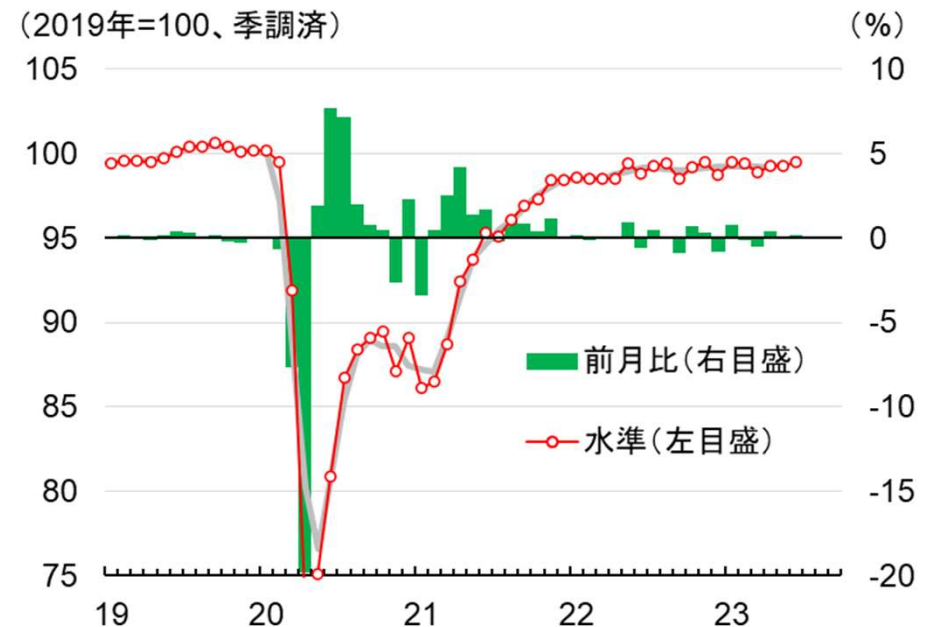
英国の6月の鉱工業生産は前月比+1.8%と大幅な増加に転じ、均した動きは上向き。消費財、中間財、資本財、いずれも好調だった。一方で、同月の実質輸出は+0.6%と小幅な増加にとどまり、均した動きは依然下向き。さらに、6月のサービス生産は前月比+0.2%と再び増加し、均した動きは上向き。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は足踏み

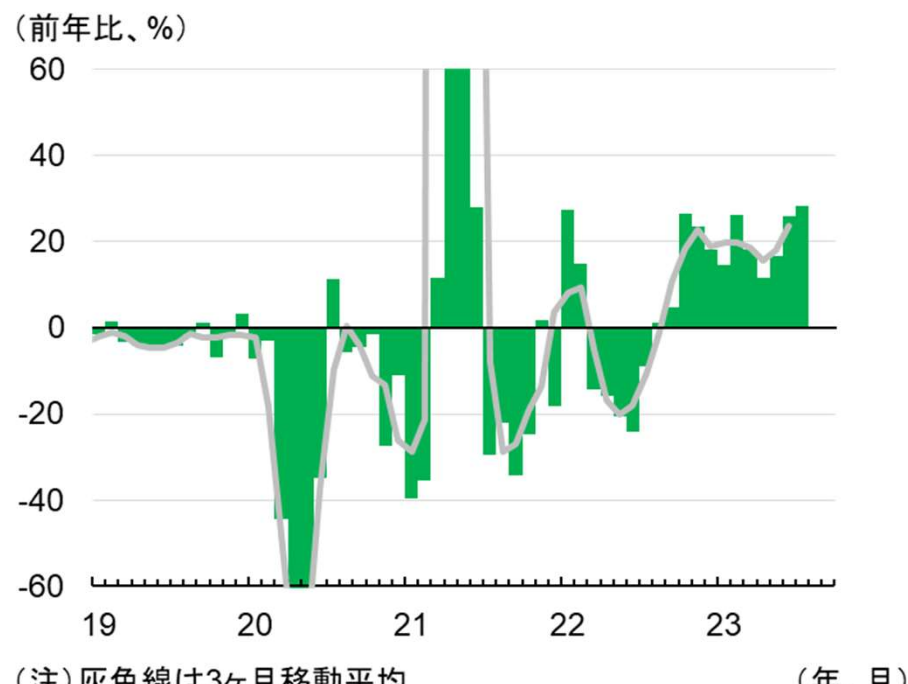
英国の7月の小売数量(除く石油)は前月比▲1.4%と再び減少し、均した動きは足踏み。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+28.3%と増勢が加速。均した動きは前年比2割増のピッチが定着し、市場規模は年間180万台レベル。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況④ 雇用は悪化

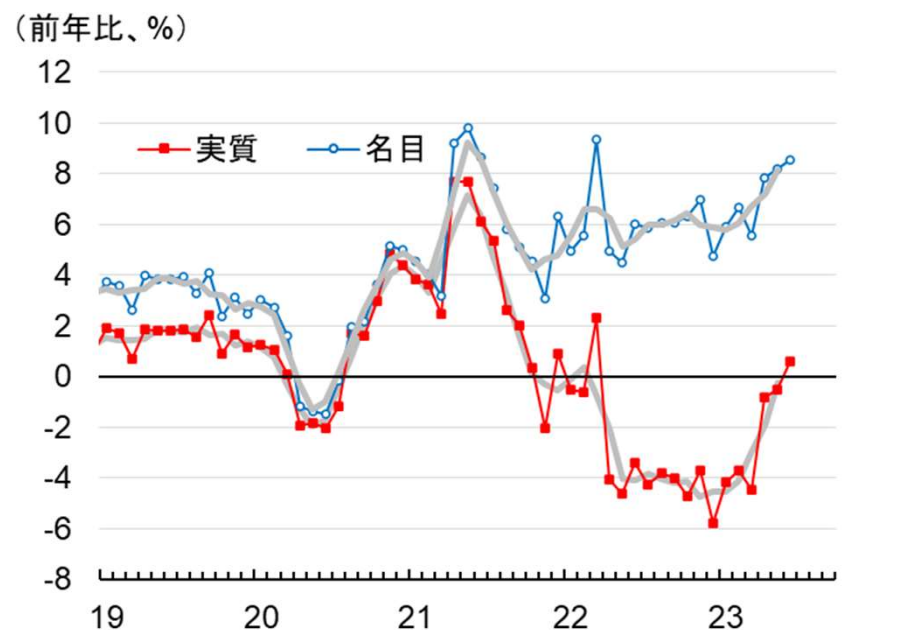
英国の6月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が4.2%と2ヶ月連続で上昇し、雇用者数も前月比12.3万人減と前月から減少幅が拡大したため、雇用は悪化と判断。均した賃金の動きは名目ベースだと前年比8%前後までプラス幅が拡大したが、消費者物価で実質化した実質ベースだと依然として小幅ながら前年割れ。

雇用統計



(注)3ヶ月間の平均値 (年、月)
(出所)ONS

平均賃金(週給)

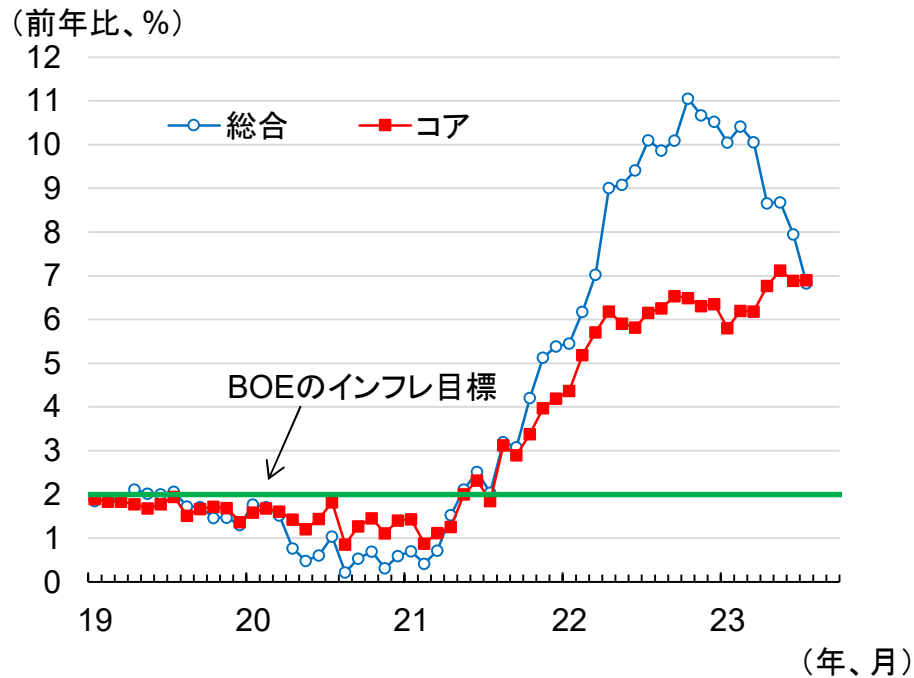


(注)灰色線は3ヶ月移動平均 (年、月)
(出所)ONS

英国景気概況⑤ インフレは鈍化

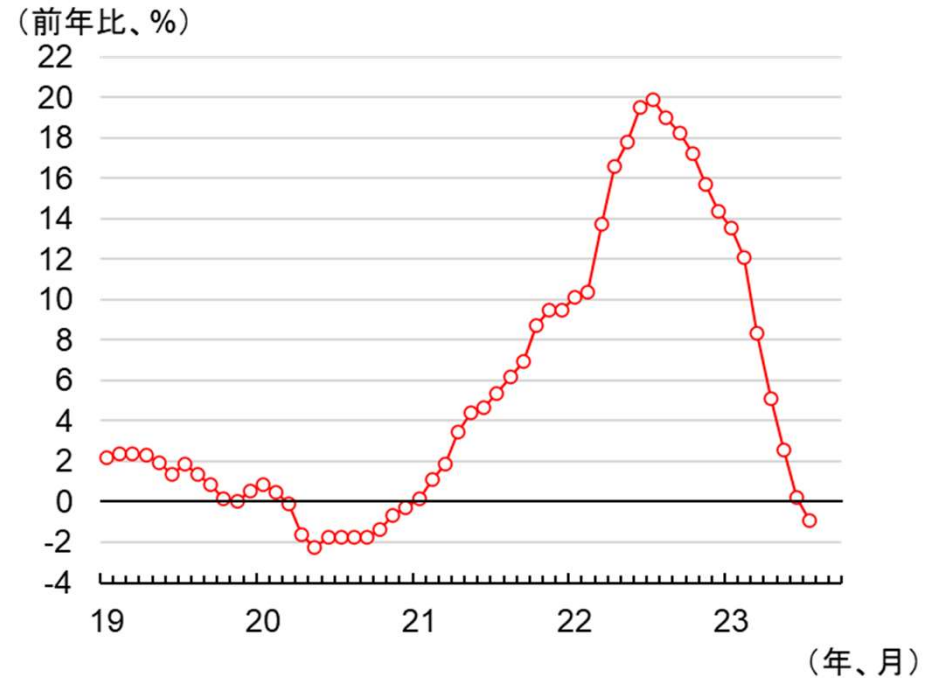
英国の7月の消費者物価は総合ベースで前年比+6.8%と、2ヶ月連続で伸びが鈍化した。一方で、変動が激しい項目を除いたコアベースは同+6.9%と、前月と同じ伸びにとどまった。消費者物価の先行指標となる生産者物価は7月時点で同▲1.0%と、2020年12月以来の前年割れとなった。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

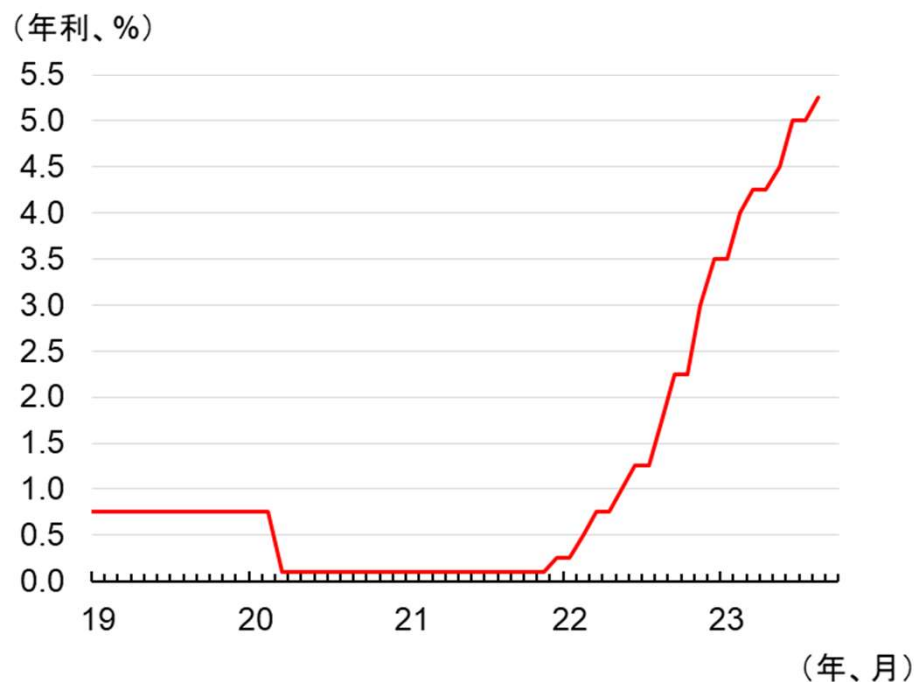


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは9月21日に金融政策委員会を開催

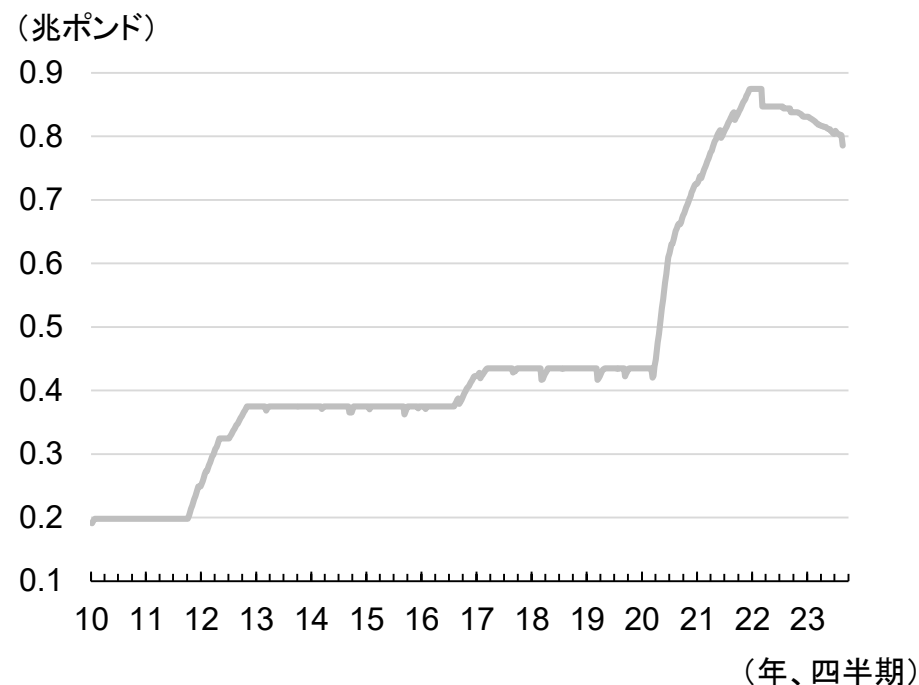
イングランド銀行(BOE)は8月3日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利(バンクレート)を0.25%引き上げ、年5.25%とした。ユーロ圏と比べても依然として強いインフレに鑑みれば、9月21日に開催される次回のMPCでも、BOEは0.25%の追加利上げを実施する公算が大きい。見送りとなっても、11月2日のMPCで追加利上げが行われる見通し。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

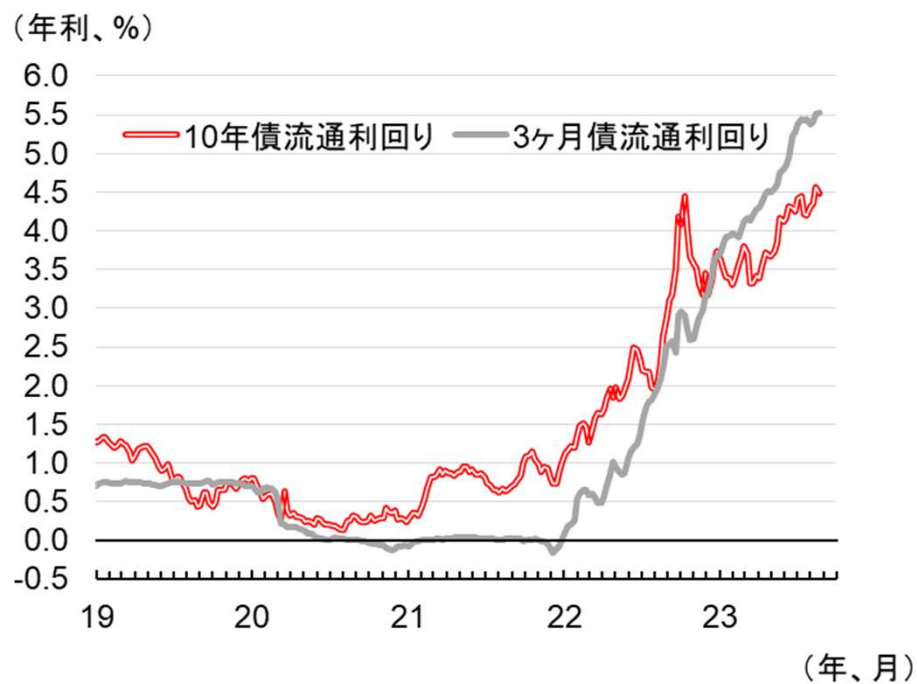


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は横ばい、株価は下落

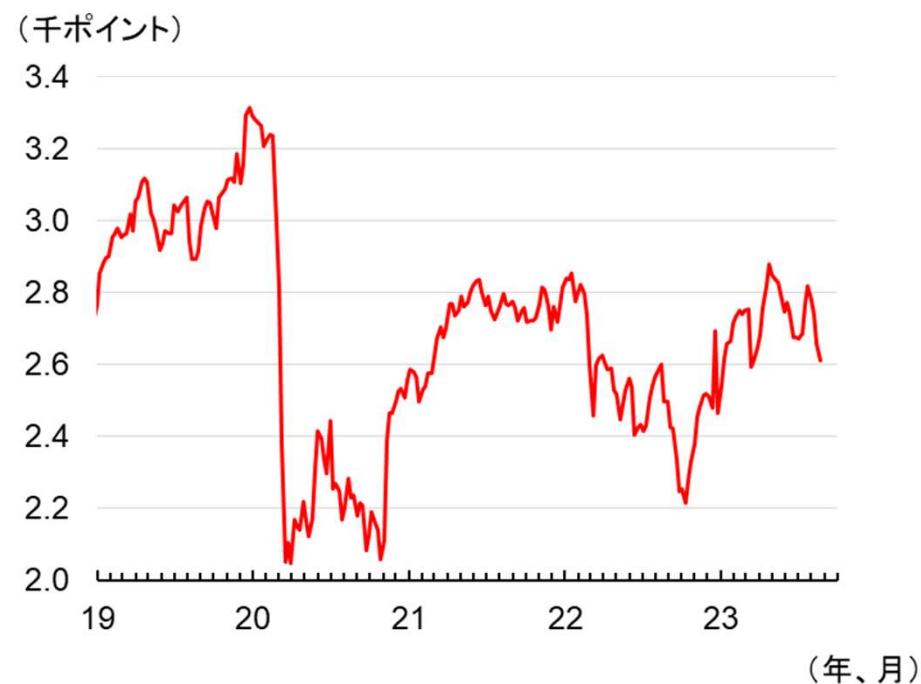
8月の英国の長期金利は横ばい。英中銀(BOE)による追加利上げを巡る思惑が交錯し、金利は横ばいで推移した。一方で、8月の英国の株価は下落した。米債の格下げや欧米の金融政策の不透明感が嫌気されて、株価が下落した。

金利



(出所)BOE

株価(FT30指数)



(出所)BOE

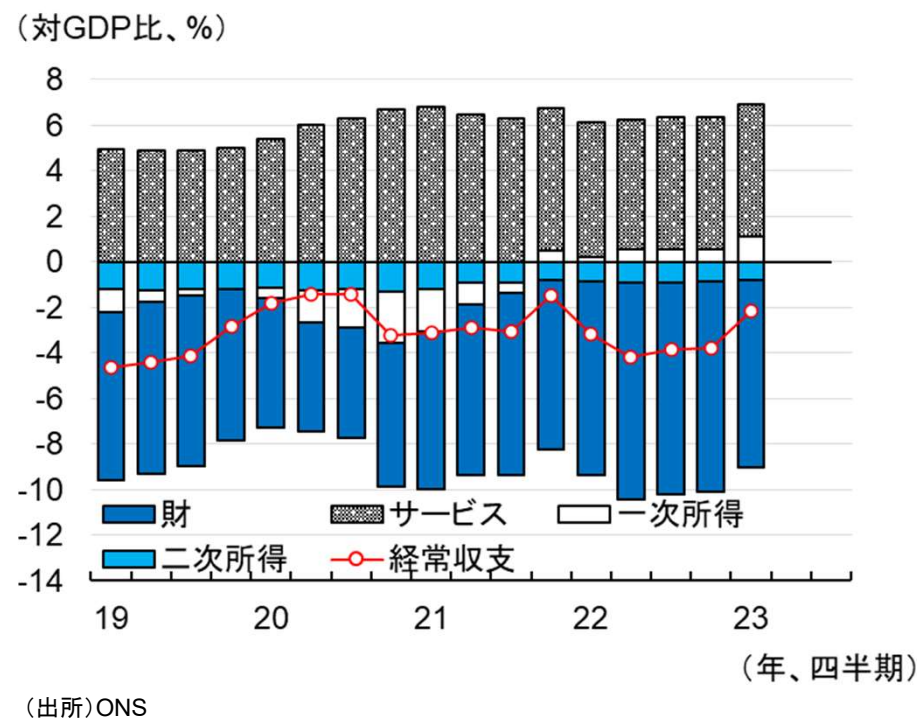
英国景気概況⑧ ポンドは対ドルで下落、対円で上昇

8月のポンド相場は対ドルで下落、対円で上昇した。対米ドルでは、世界的なドル高の流れを受けて、ポンドが売られた。対円では、日英間の金融政策の方向の違いから、ポンドが買われた。国際収支統計を確認すると、財収支の赤字幅は縮小しているが、依然としてGDPの8%近い水準を保持しており、ポンドの実需買い圧力は弱い。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください